



博士（人間科学）学位論文 概要書

对人的位置関係に関する
基礎的研究

1997年1月

早稲田大学大学院人間科学研究科

山口 創

指導教授 春木 豊

本研究の目的は、2者の座席配置の構成要因を明らかにし、2者のなす空間のもつ本質的な意味について考察し、得られた知見を臨床心理学的な視点からも考察を加えることであった。

第1章では従来行われてきた空間に関する研究が、動物における空間研究と視線研究、人間の空間研究と視線研究にわけてレビューされた。人間を対象にした空間研究はさらにパーソナル・スペースのアプローチと空間配置のアプローチによる研究にわけて論じられた。

第2章では、第1章で論じられた問題点に関して以下のように指摘された。(1) パーソナル・スペースの構造を説明する概念や、空間を構成する要因について明らかにされていない。(2) 空間配置の研究において、着席行動と座席配置を厳密に区別して行われた研究が少なく、各々の効果が明らかにはなっていない。(3) 空間配置の研究において、生得的な基盤を背景とし、動物行動からの類推による共通項を求める観点からの研究は行われていない。

第3章では、第2章で指摘された問題点を受けて、座席配置の構成要因を明らかにするための実験を行った。研究Iでは日常場面でみられる座席配置を用いて、様々に配置された座席に座ったときに喚起される気分についての検討を行った。またどちらが先に座っているかの効果についても検討した。その結果、2者が近距離で座るほど緊張・興奮した気分と親密・快の気分がともに高くなった。研究IIでは座席配置の構成要因を距離、位置、身体方向にわけ、これらを統制した配置の座席を設け、それぞれと気分との関連を検討した(Fig 1参照)。その結果、緊張・興奮に及ぼす座席配置の要因は距離と、相手に対して自分がとる位置であること、親密・快に及ぼす座席配置の要因は距離と、相手と自分との配置の対称性であることがわかった(Fig 2, Fig 3 参照)。

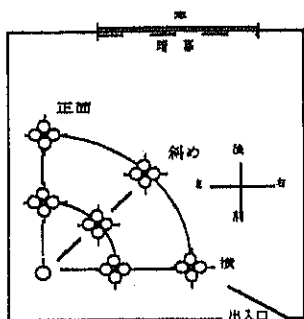


Fig 1 実験室と用いた座席配置

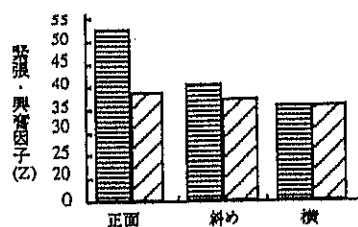


Fig 2 各位置での固定条件別にみた緊張・興奮因子得点

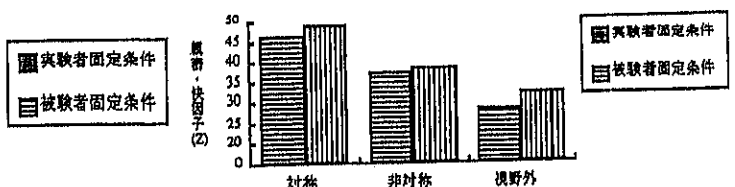


Fig 3 対称、非対称、視野外での親密・快因子得点

研究IIIでは、座席配置の構成要因の中で、特に視線と気分の関連性について検討した。その結果、緊張・興奮に及ぼす位置の効果は相手から受ける視線によって表われなくなることがわかった。また視線のパターンに関わらず、相手との配置の対称性によって親密・快の気分が喚起されることが明らかになった(Fig 4, Fig 5 参照)。

第4章では、特に位置と視線に着目した研究を行った。研究IVでは、視線を剥奪した場合に、位置が気分にも及ぼす効果について検討した。その結果、位置の主効果だけが有意であり、自分が相手の正面>斜め>横に位置する順に緊張や興奮が高まることがわかった。一方、親密感や快といった気分は、これまでの実験と同様に、相手と自分との空間的な対称性によって高まることがわかった。

研究Vでは相手に対する位置だけを把握させる実験を行った。空間の配置は研究IVと同様であり、2者が視覚的遮蔽をした条件で、相手に対する位置だけを把握させた。また、相手に対する位置を変化させる条件と、相手の身体方向が変化することで相対的に位置の変化が起こる条件を比較した。結果は、位置の変化の有無に関らず、相手の正面、斜め、横に位置する順に緊張や興奮が高まることがわかった。これに対して、親密・快の気分ではどの要因の効果もみられなかった。

第5章では、2者の関係性を要因として取り入れ、初対面の2者と友人関係の2者において、座席配置の構成要因と気分の関連について検討された。その結果、正面では初対面条件は友人条件よりも緊張や興奮が有意に高いが、斜めではこの差は小さくなり、横では差はみられなかった。また、親密や快は相手と自分との配置の対称性によって喚起されることが確認された。

第6章では、臨床心理学的な視点からみた、座席配置の意義について検討された。研究VIIでは仮想場面において、対人不安の高・低によって座席の選択位置が異なるかについて調査による検討を行った。その結果、対人不安の高い者は相手の正面を避けて斜め前を多く選択することが明らかにされた。研究VIIIでは、面接の際の座席配置の臨床的意義について検討された。対人不安の高い者の不合理な信念について話し合うことの効果と、話し合う際の座席配置が認知、主観的情動、行動に及ぼす影響について検討した。その結果、不合理な認知についての話し合いを行うだけでも認知の不合理性は低減すること、その効果は直角で行うより斜向いで行う方が大きいこと、各回の面接後の主観的不安は、セッションを経るにつれて、斜向いで行うと低下するが、直角では高まることわかった(Fig 6, Fig 7 参照)。

第7章では総合的な考察が論じられた。緊張・興奮の気分については、相手から受ける視線と、相手に対する自分の位置によっても喚起されること、親密・快の気分は相手と自分の配置の対称性によって喚起される理由について心理学的な視点と、比較行動学的な視点から考察された。また臨床心理学における座席配置の意義について討論された。

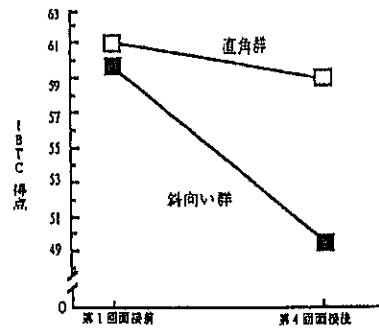


Fig 6 面接によるIBTCの変容

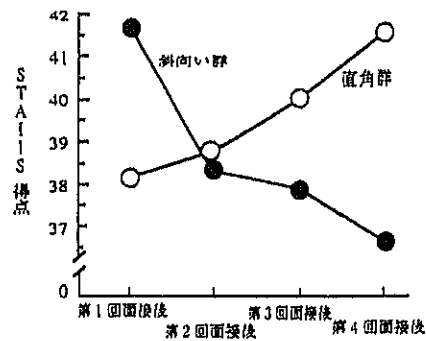


Fig 7 各面接後のSTAI-Sの得点

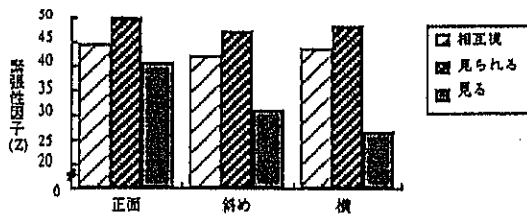


Fig 4 3つの位置別にみた緊張・興奮因子の得点

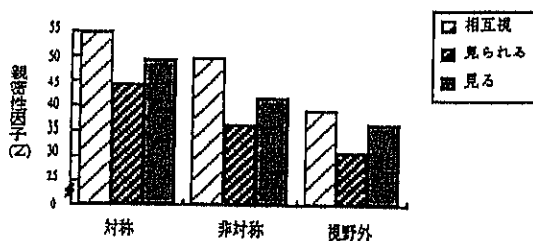


Fig 5 3つのカテゴリー別にみた親密・快因子得点